

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 4 部門第 1 区分

【発行日】平成 26 年 9 月 4 日 (2014.9.4)

【公開番号】特開 2013-28918 (P2013-28918A)

【公開日】平成 25 年 2 月 7 日 (2013.2.7)

【年通号数】公開・登録公報 2013-007

【出願番号】特願 2011-164352 (P2011-164352)

【国際特許分類】

E 0 4 B 1/64 (2006.01)

E 0 4 B 1/76 (2006.01)

【F I】

E 0 4 B 1/64 D

E 0 4 B 1/74 A

【手続補正書】

【提出日】平成 26 年 7 月 22 日 (2014.7.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

屋根面において所定の屋根勾配を形成するように設けられた屋根材と、その下面側に前記屋根材に対向して設けられた屋根裏面材とを有し、前記屋根材と前記屋根裏面材との間に、前記屋根面の勾配上端部から勾配下端部まで延びるようにして屋根下空間部が形成されている建物の屋根構造であって、

前記屋根材は、屋根勾配の上下方向に並べて設けられた第 1 屋根部及び第 2 屋根部を有しており、

前記屋根下空間部内には、前記第 1 屋根部の下面側となる位置に、相対湿度の上昇時に吸湿を行い、相対湿度の下降時に放湿を行う吸放湿性能を有する吸湿材が設けられていることを特徴とする建物の屋根構造。

【請求項 2】

前記第 1 屋根部は、該第 1 屋根部の上面部における日射吸収率が前記第 2 屋根部の上面部に比べて高いものであることを特徴とする建物の屋根構造。

【請求項 3】

前記屋根材において、前記屋根面の勾配上端部を含む勾配上部エリアを前記第 1 屋根部とし、それよりも勾配下側のエリアを前記第 2 屋根部としている請求項 1 又は 2 に記載の建物の屋根構造。

【請求項 4】

前記屋根材において、前記屋根面の勾配上端部を含む勾配上部エリアを前記第 2 屋根部とし、それよりも勾配下側のエリアを前記第 1 屋根部とし、

前記屋根下空間部における屋根勾配の上下両端部にはそれぞれ通気開口部が設けられている請求項 1 又は 2 に記載の建物の屋根構造。

【請求項 5】

建物内の部屋空間の上方であってかつ前記屋根材の下面側に、複数の板状断熱材が各々の端面同士を突き合わせた状態で設けられ、それら複数の板状断熱材により前記屋根裏面材が構成されており、

前記複数の板状断熱材の突き合わせ部分を跨ぐようにして前記屋根材が設けられている

請求項 1 乃至 4 のいずれか 1 項に記載の建物の屋根構造。

【請求項 6】

前記屋根材は、波形状の折板材であり、谷部又は山部が勾配方向に沿って延びる状態で前記屋根裏面材の上に載置されており、

前記屋根下空間部は、前記屋根材の前記山部と前記屋根裏面材との間に挟まれた空間であることを特徴とする請求項 1 乃至 5 のいずれか 1 項に記載の建物の屋根構造。